

小中学校の教材費の会計業務についてです。

まず、会計業務の現状についてお尋ねします。

本市の中学校では、年度初めに各教科の先生が、ドリルやワーク、資料など、何を使うかというのを決めます。集金表作成や保護者からの引き落とし、業者への支払い、あるいは口座振替、会計事務など、その後の仕事は全部PTA事務の方がなさるとのことです。小学校ではまだまだそこまでは行っておりません。学級担任や会計担当の負担が大きいとお聞きしております。学年でドリルやワークなど、使う教材を決めて業者に注文します。毎月幾ら集金するか、集金表を保護者に配付します。保護者は通帳にお金を用意しておきます。集金日に引き落とされ、学年の通帳に入ります。学期末にそれぞれの業者に支払いをします。銀行が手数料を取るようになったので、学校から業者への口座振替ができなくなったとお聞きしております。各業者への支払金額を用意するために、会計担当は銀行の払戻し請求書を業者の数だけ用意します。空き時間に銀行に行ったり、学校によっては、事務の人が各学年の分をまとめて学校から引き下ろしてきてくれたりしますので、準備が遅れてはいけません。学校に業者さんに来てもらい、支払いをします。そして、エクセルの決まった様式の帳簿を完成させます。日にちや金額を間違えてはいけません。教頭や事務の監査があり、事務共同実施監査もあり、これが大変厳しいとのこと。お金が足りなくて通帳から引き落としができない家庭もあり、学級担任がまず督促をしないとはいけません。これが人間関係を壊すもとで、教員にとっては大変厳しく嫌な仕事です。学期末のテストの処理や成績・通知表つけなどでとても忙しい時期に会計の仕事が重なります。学年に何クラスもある場合はまだしも、単学級の場合は長期休みの準備もあって大変です。学校から業者への支払いは学校によって違う場合があります。現金を触らないようにというお話も聞きました。学校から業者への支払いは、各学校どのようになっていますか。振込の場合、手数料はどうしていますか、お尋ねします。

また、学年末の忙しさと重なる会計業務についてどのように認識していらっしゃるでしょうか、お尋ねします。

次に、今後の方向性についてです。

教員の仕事は、教えることのほかに実に様々なことがあります。あるときは銀行家、あるときは借金取立て人、あるときはトラブルシューターに、あるときは裁判官、あるときは給食のおばちゃんなどなど、いろいろに例えられます。できるだけ減らして本来の仕事に集中していただきたいと思います。

文部科学省の指針でも、教材費などの学校徴収金の徴収、管理、未納者対応は、原則として学校、教師の本来的な業務ではなく、地方公共団体が担うべきとの考え方が示されています。

今後につきましては、本市中学校のように、教材を決めて注文するところまでは先生が行う、その後は事務の方にお任せをする、事務の方の処遇も改善する、この方向でいかがでしょうか。御所見を伺います。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めま

す。竹林教育委員会事務局長。

**○教育委員会事務局長（竹林栄一）**

（登壇） 小学校の教材費の会計業務についてお答えいたします。

まず、現状についてでございます。

業者への支払いにつきましては、現在、多くの小学校において、教材販売業者への銀行振込により支払いが行われています。その際の振込手数料につきましては、教材費に振込手数料を含めて保護者の方に御負担をいただいておりますが、可能な範囲で手数料が発生しない手法を取ることによって保護者の負担軽減に努めております。

次に、学年末に会計業務等が重複する現状につきましては、成績処理や次年度の準備、また各種会計業務が重なることで教員の負担が増えることは認識しており、引き続き各校において、計画的かつ効率的な事務の執行に取り組むよう指導してまいります。

次に、今後の方向性についてでございます。

会計事務につきましては、学校ごとに教員と事務職員との役割分担に違いがあると認識しております。今後におきましても、特定の教職員に負担が偏ることのないよう、好事例を共有し、事務改善を図ることで、教職員の働き方改革を推進してまいります。

**○議長（田窪秀道）** 再質問はありますか。井谷幸恵議員。

**○8番（井谷幸恵）**（登壇） 御答弁ありがとうございます。

一番大きなネックとなることは何でしょうか、お尋ねします。

**○議長（田窪秀道）** 答弁を求めます。竹林教育委員会事務局長。

**○教育委員会事務局長（竹林栄一）**

（登壇） 井谷議員さんからの再質問にお答えいたします。

教員が事務を手放すネックとなっているものは何かということなんですけれども、教材の選定、そういったものについては教員の方の仕事ではないかと思っております。これ以外につきましても、校納金というものは様々な種類のものがありまして、いろんな性質のものがございます。そういったものについて、どれが負担軽減になるものになっているのか、まずは一つ一つ調査してまいりたいというふうに考えております。

**○議長（田窪秀道）** 再質問はありますか。井谷幸恵議員。

**○8番（井谷幸恵）**（登壇） 新居

浜市の全小中学校に配置されておりますスクール・サポート・スタッフという方がいらっしゃいまして、印刷だとか資料の準備など、教員のお手伝いをしてくださっております。どの学校に行っても、先生方からはこのスクール・サポート・スタッフについて、めっちゃ助かっているというふうな喜びの声を聞きます。会計の仕事も教員の手から離れると本当に喜んでもらえると思います。子供にとってもうれしいことです。

全日本教職員組合の調査によりますと、学校の教員は、1日平均11時間近く学校にいて、平日の休憩時間は平均で僅か10.1分、小学校に限れば4.1分だと言われております。授業の準備をはじめとする教員としてどうしてもやらなくてはならない仕事の多くは、退勤時間が過ぎてからようやく取りかかるという実態があります。ぜひ会計業務をはじめ、学校において先生たちの仕事で減らせ

るものは減らしていくなど、学校の環境の改善を強く求めて終わります。